

アース製薬が CDP 気候変動での「A-」評価を獲得

アース製薬株式会社（本社：東京都千代田区、社長：川端克宜）は、国際的な非営利組織である CDP^{※1} が実施する気候変動の取り組みと透明性を評価する調査「CDP 気候変動質問書」にて、A-（A マイナス）評価を獲得しました。



当社は、「気候変動への対応」をサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の一つと定め、「CO₂ 排出量削減」や「電力の再生可能エネルギー化」については指標と目標を設定し、取り組みを推進しています。また、気候関連財務情報の開示に関するタスクフォースである TCFD^{※2} に賛同し、気候変動が当社事業に及ぼす影響の分析と情報開示に取り組んでいます。こういった気候変動に対する取り組みや透明性のある情報開示が、今回の評価につながったものと考えます。

当社は、「生命（いのち）と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念のもと、気候変動問題をはじめとする社会課題解決に向け、ステークホルダーの皆様と協働して取り組みを進め、今後もサステナブルな社会の構築に貢献していきます。

※1：CDPとは、Carbon Disclosure Project（気候変動開示プロジェクト）の略称で、2000年に英国で設立された国際的な非営利団体です。気候変動などの環境問題に関する情報開示プラットフォームを運営し、企業や自治体に対して環境関連の情報開示を要請しています。プラットフォームに集約された情報は、CDPの定める基準（AからD-）によって評価され、投資や購買等の判断材料となっています。

※2：TCFDとは、Task Force on Climate-related Financial Disclosures（気候関連財務情報開示タスクフォース）の略称で、企業や機関における気候変動に関連する財務リスクの公開を推進するために設置された国際的な組織です。TCFDは、企業や機関に対して既存の財務情報に気候変動による影響とその対応状況を加えて公開することを提言するとともに、気候関連情報開示の基礎となる枠組みを提示しています。

関連 URL :

• <https://corp.earth.jp/jp/sustainability/materiality-climate-change/index.html>

• <https://corp.earth.jp/jp/sustainability/materiality-climate-change/tcf/index.html>